

府立木津川運動公園（北側区域）の基本計画

令和3年3月



はじめに

府立木津川運動公園は、2002（平成14）年サッカーワールドカップが開催できる運動公園として平成7年度に都市計画決定しましたが、日韓合同開催等の関係もあり会場候補地から落選しました。その後、整備計画の見直しを行うため、平成15年6月に有識者や地元関係者等による「木津川右岸運動公園（仮称）整備計画策定委員会」を設置し、平成16年3月に上記委員会からの提言を受け、現計画を策定しました。

これまで、本公園の南側区域では、山砂利採取跡地の自然再生と緑豊かな公園を目指して府民参画による森づくりを進めるとともに、子どもから高齢者までが幅広く利用できるレクリエーションの場として、大芝生広場、ファミリー広場、ちびっこ広場等を整備、平成26年3月に10.9haを供用し、残る2.5haについても令和2年度内の完成供用を目指して整備を進めているところです。

本公園の北側区域では、新名神高速道路等の広域的な道路ネットワークの整備や大型商業施設の立地といった周辺環境の変化を踏まえ、南側区域と一体となって東部丘陵地及び山城地域の玄関口として、魅力溢れる都市公園を目指す必要があります。

また、子育て世代が住みやすい生活環境づくり、健康長寿社会の実現等を推進するため、本公園においても周辺の都市公園との機能分担や相乗効果を図りつつ、地域のニーズを踏まえた新たな利活用に対応する必要があります。

令和2年のコロナ禍においては、多くの人々が身近な公園に訪れ、改めて公園の必要性が認識されたところです。一方で、WITH・POSTコロナ社会における生活様式の変化や、これまで取組がなされているSDGsの達成、障害の有無によって分け隔てられることのない共生社会の実現、働き方改革等の公園を取り巻く様々な都市課題に的確に対応しつつ、多くの人に親しまれ賑わう公園を目指す必要があります。

以上のことから、木津川運動公園の北側区域については、令和元年10月に「木津川運動公園（北側区域）の計画見直しに係る懇話会」を設置し、平成16年3月の整備計画策定委員会の提言を踏まえつつ、周辺環境の変化や時代のニーズに柔軟に対応し、多くの人々から親しまれ賑わう空間を創出するため、新しい計画に見直しを行なうものです。

目次

I 現状と課題.....	1
1 計画地及び周辺の概要	1
2 現在の基本計画.....	2
3 周辺状況等の変化.....	3
II 北側区域の新たな整備方針.....	4
1 方向性の整理	4
(1) 周辺地域の人口構造を踏まえた方向性	4
(2) 子育て支援に関する方向性	7
(3) 健康長寿・健康づくりに関する方向性	7
(4) 共生社会の実現に関する方向性.....	9
(5) 周辺土地利用計画を見込んだ方向性.....	9
(6) 地理的優位性を活かした方向性	11
(7) 公園の需給状況を踏まえた方向性	12
(8) 城陽山砂利採取跡地の自然再生と緑の活用の方向性.....	15
(9) WITH・POST コロナ社会に求められる公園機能	15
(10) 方向性の実現化施策・ツール	16
2 北側区域の新たな整備方針.....	18
(1) 基本計画の考え方.....	18
(2) 北側区域の新たな整備方針.....	18
(3) 整備方針の実現化に向けたシナリオ.....	19
III 北側区域のサウンディング型市場調査及び府民アイデア募集結果.....	20
1 木津川運動公園（北側区域）整備事業の魅力向上に向けた サウンディング型市場調査結果について	20
2 木津川運動公園（北側区域）整備事業の魅力向上に向けた 府民アイデア募集アンケート結果について	21
IV 公園区域、先行整備エリアと導入機能.....	22
1 公園区域.....	22
2 整備エリア	23
3 導入機能の考え方.....	24
4 基本機能（必須施設）と向上機能（民間提案）の設定.....	25
5 北側区域及び南側区域の導入機能	26
(1) 先行整備エリア	26
(2) 将来構想エリア	30
(3) 整備済みエリア（南側区域）	31
6 先行整備エリアの導入機能のまとめ.....	32
7 基本機能配置例（参考イメージ）	33
用語解説.....	34

I 現状と課題

1 計画地及び周辺の概要

木津川運動公園は、京都府南部の山城地域、木津川右岸の丘陵地、城陽市の市街地外辺部に位置しています。

本公園及びその東側に広がる城陽市東部丘陵地は、昭和35年頃から山砂利採取が開始され、現在も採取が行なわれる一方で、（一財）城陽山砂利採取地整備公社が主体となり山砂利採取跡地の埋戻し事業が日々進められています。

城陽市東部丘陵地は、「城陽市東部丘陵地整備計画【見直し版】」（城陽市、平成28年5月）等に基づき、土地利用、緑の保全及びインフラ整備が順次進められる計画となっています。

最寄り駅はJR奈良線長池駅であり、本公園南側区域までは徒歩で10分程度の場所にあります。

本公園周辺には、住宅地、運動公園、植物園、サンガタウン城陽、ゴルフ場などが所在しており、緑に囲まれた運動・レクリエーション機能が集まっています。



出典：木津川運動公園ホームページ
木津川運動公園南側区域



※IC：インターチェンジ、SIC：スマートインターチェンジ

①府立山城総合運動公園	
所在	宇治市広野町
面積	94.9ha
施設	陸上競技場、体育館、プール、球技場、野球場、遊びの森、ふれあいの森 等
②城陽市総合運動公園	
所在	城陽市寺田奥山
面積	16ha
施設	体育館、野球場、多目的広場、テニスコート、バーベキュー、グランピング 等
③府立府民スポーツ広場	
所在	久世郡久御山町
面積	9.7ha
施設	グラウンド、自由広 場
④（公財）青少年野外活動総合センター	
所在	城陽市寺田南中芝
施設	フットサル場、プール、宿泊棟、バーベキュー、キャンプ場 等

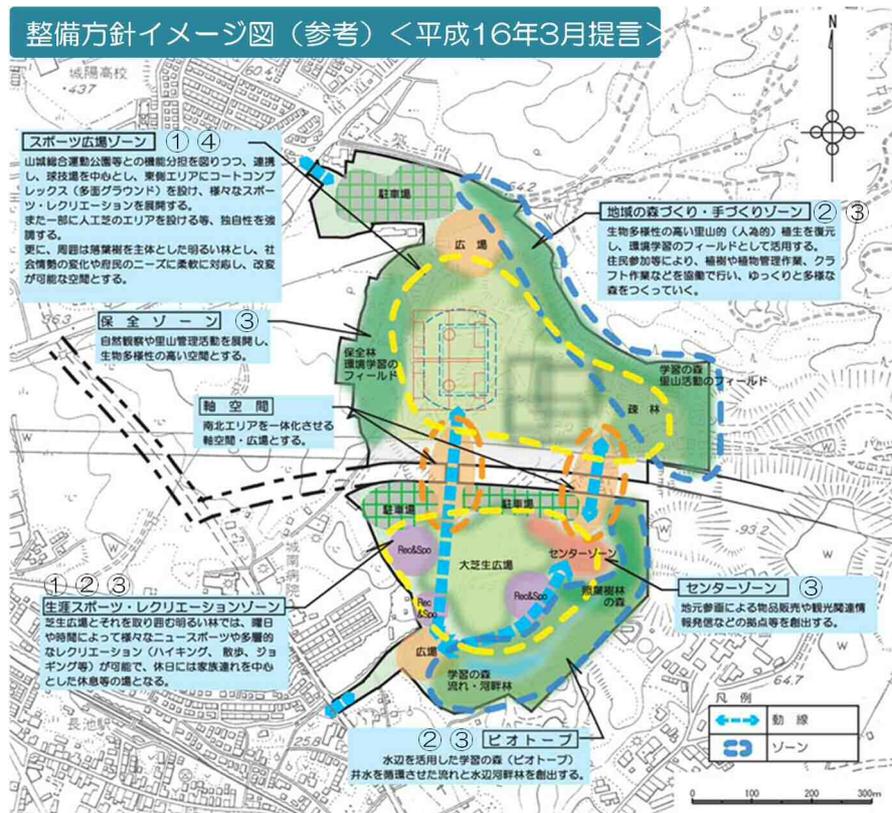
図 I-1 木津川運動公園の周辺状況

2 現在の基本計画

平成 16 年にスタジアムを中心とした計画から見直し、山砂利採取跡地の自然再生と緑豊かな公園を目指して府民参画による公園づくりを行うとともに、南側区域は大芝生広場、北側区域は大規模な芝生コートを中心に、生涯スポーツや多様なレクリエーションニーズに応え、地域の振興に寄与する公園としています。

また、広域的な防災機能を有する公園として供用中の南側区域は、「京都府地域防災計画」（京都府防災会議、令和元年 6 月）において防災活動拠点、「城陽市地域防災計画」（城陽市防災会議、令和元年 5 月）において広域避難場所及び災害時に被災者を支援するボランティアの活動拠点等として位置づけられています。

基本的な方向性	<ul style="list-style-type: none"> ● 山砂利採取跡地の自然再生と緑豊かな公園 ● 計画から整備、管理運営まで府民参画により府民が育てる公園
空間利用の考え方	<ol style="list-style-type: none"> ① 子どもからお年寄りまで幅広い府民が気軽にスポーツを楽しめる公園 ② 多様なレクリエーションニーズに応え、交流の輪が広がる公園 ③ 多くの利用者で賑わい、地域の振興に寄与する魅力あふれる公園 ④ 安心・安全を確保する広域的な防災の機能を持つ公園



※①～④は「空間利用の考え方」

出典：「木津川右岸運動公園（仮称）整備計画策定に向けた提言」（木津川右岸運動公園（仮称）整備計画検討委員会、平成 16 年 3 月）

図 I-2 現計画の概要

3 周辺状況等の変化

平成 16 年 3 月の基本計画の見直し以降、新名神高速道路の建設凍結解除（平成 24 年 4 月）や城陽スマートインターチェンジ（仮称）の開設決定（平成 29 年 7 月）、国道 24 号城陽井手木津川バイパスの事業化（平成 31 年 4 月）、都市計画道路東部丘陵線の整備等、道路ネットワークの進展、アウトレットモールを始め城陽市東部丘陵地における商業・流通施設の立地といった新たな土地利用計画が具体化するなど、周辺環境が大きく変化しています。

また、京都府では、「お茶の京都」構想（平成 27 年 6 月）の策定や「京都府総合計画」（令和元年 10 月）の策定等、新しい取組みを進めているところです。

少子高齢化と本格的な人口減少、働き方改革、共生社会の実現、新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の拡大など、都市課題も変化しています。また、国際連合において取組みが進められている令和 12（2030）年を目標とする SDGs（持続可能な開発目標）の達成についても、京都府の重要な目標としています。

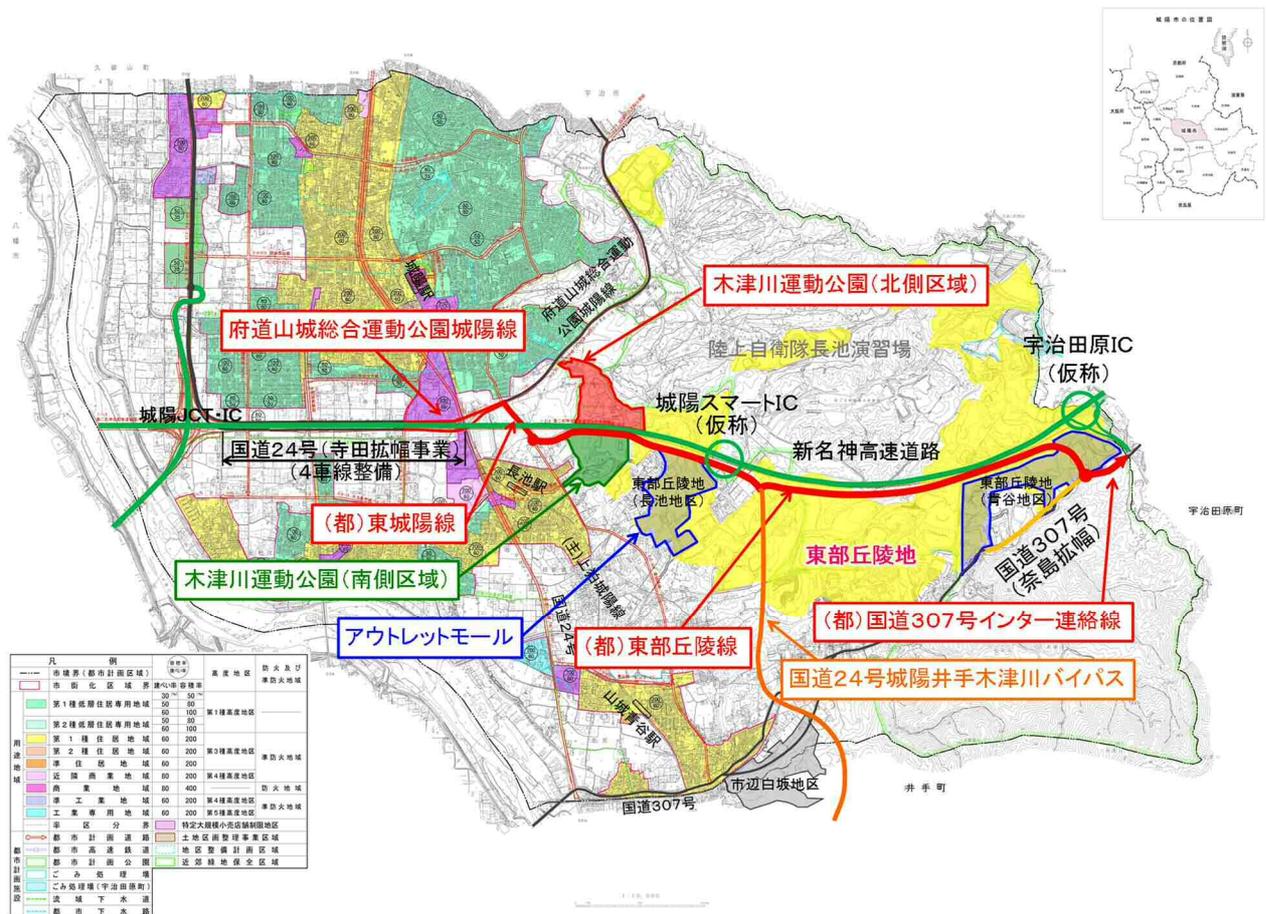


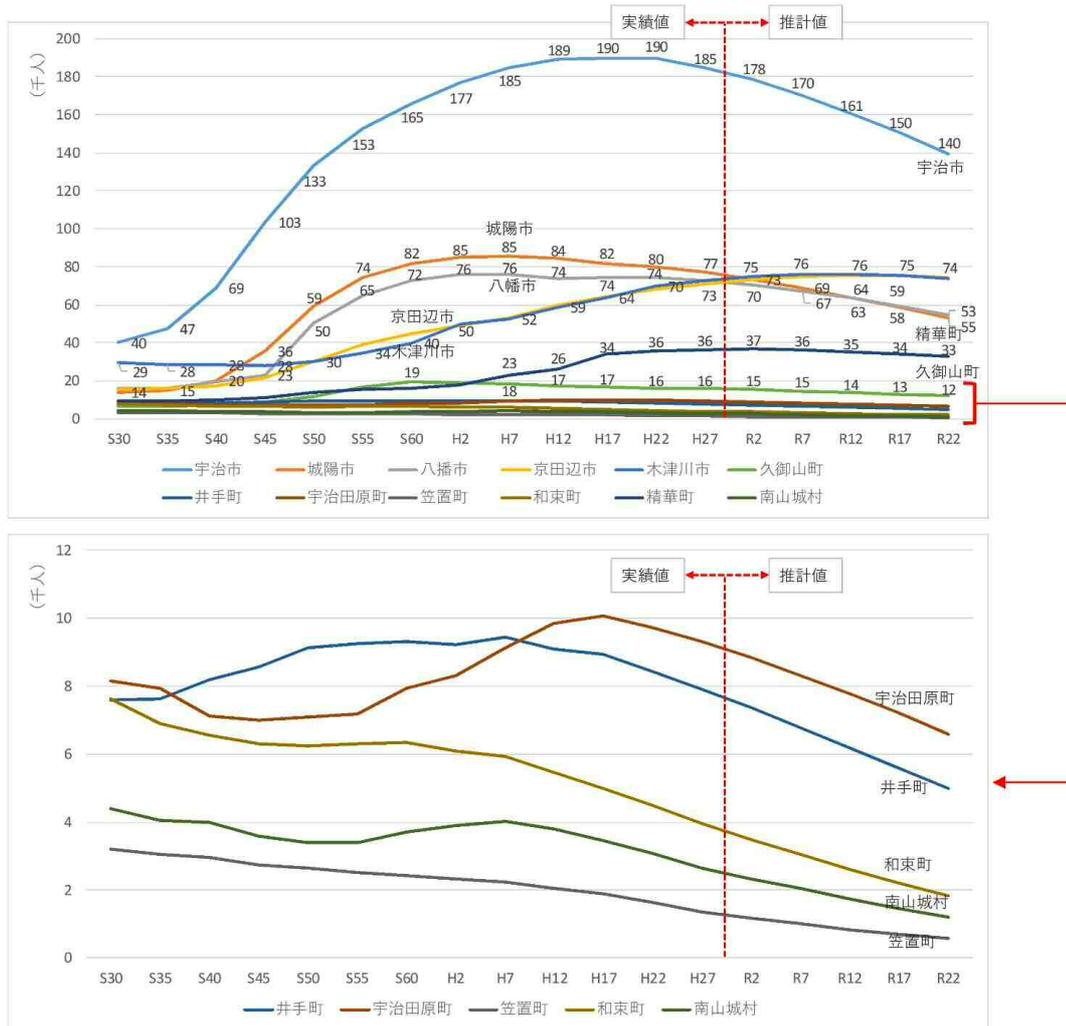
図 I-3 東部丘陵地整備関連開発動向

Ⅱ 北側区域の新たな整備方針

1 方向性の整理

(1) 周辺地域の人口構造を踏まえた方向性

山城地域の人口は、北中部（木津川右岸）の城陽市、宇治市で昭和40年代からベッドタウンとして著しく増加してきましたが、近年は減少してきており、この傾向は今後も続く見込みであり、東部地域（木津川右岸）でも減少が続いています。一方で、西部の関西文化学術研究都市エリア（京田辺市、木津川市、精華町）では、今後も増加が続く見込みとなっています。



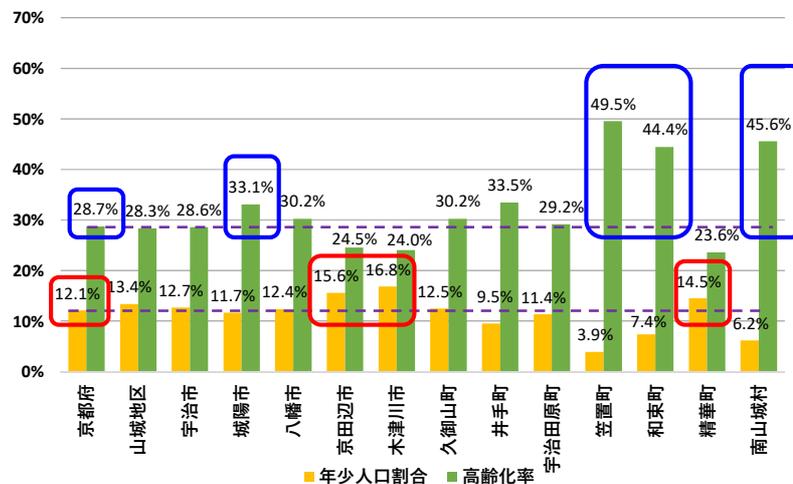
出典：実績値：「平成27年国勢調査報告」

出典：推計値：「日本の地域別将来推計人口」（国立社会保障・人口問題研究所、平成30年12月25日）

図 II-1 山城地域の人口推移・推計

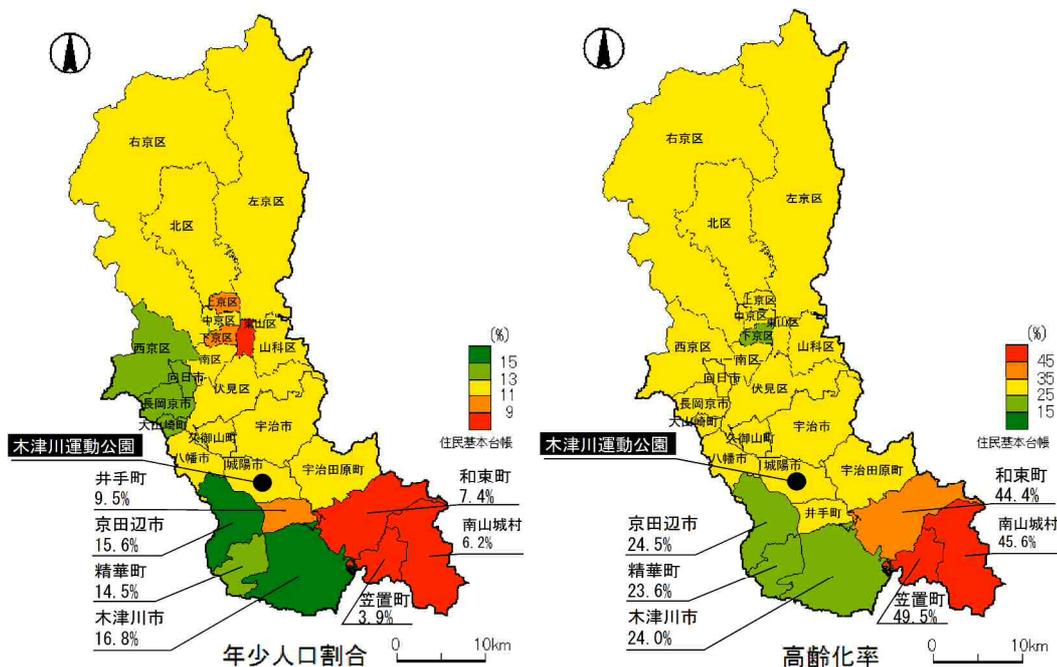
現在の山城地域の高齢化率は、城陽市 33.1%と府内平均 28.7%よりも高く、特に相楽東部地域（笠置町、和束町、南山城村）では高齢化率は50%に迫っています。一方、西部の関西文化学術研究都市エリアでは、年少人口割合が府内平均 12.1%よりも高く、子育て世代が多いことが分かります。

このように山城地域では、今後も人口増加が見込まれる西部の関西文化学術研究都市エリアと、人口減少・高齢化が進む東部地域（木津川右岸地域）が併在しています。



出典：「住民基本台帳年齢階級別人口」（平成31年1月1日現在）

図 II-2 山城地域の年少人口割合・高齢化率



出典：「日本の地域別将来推計人口」（国立社会保障・人口問題研究所、平成30年12月25日）

図 II-3 木津川運動公園利用者の居住地域圏における年少人口割合・高齢化率

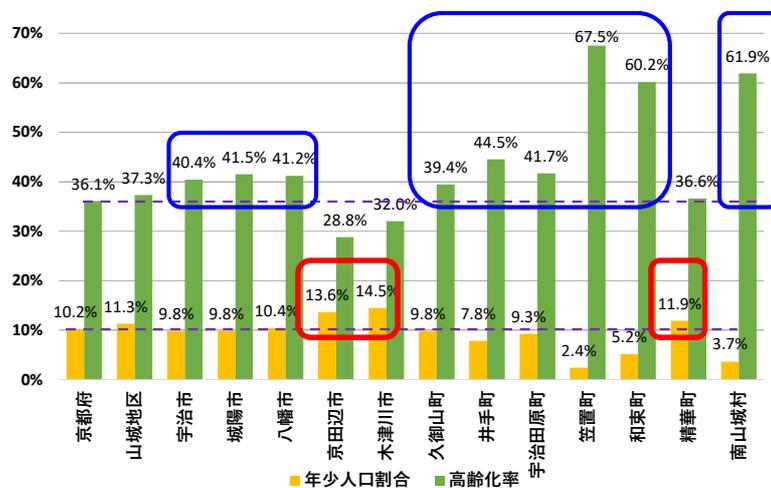
将来（令和22（2040）年）は、京都府の高齢化率が上昇し、特に山城地域では、早くから人口流入した北中部地域で高齢化が進行、相楽東部地域では更に高齢化が進行し、西部の関西文化学術研究都市エリアを除き、府内平均に比べて高い割合となる見込みです。

西部の関西文化学術研究都市エリアは、依然として府内全体より年少人口割合が高い状況となる見込みです。

これらのことから、周辺地域の人口構造を踏まえた方向性を以下のとおりとします。

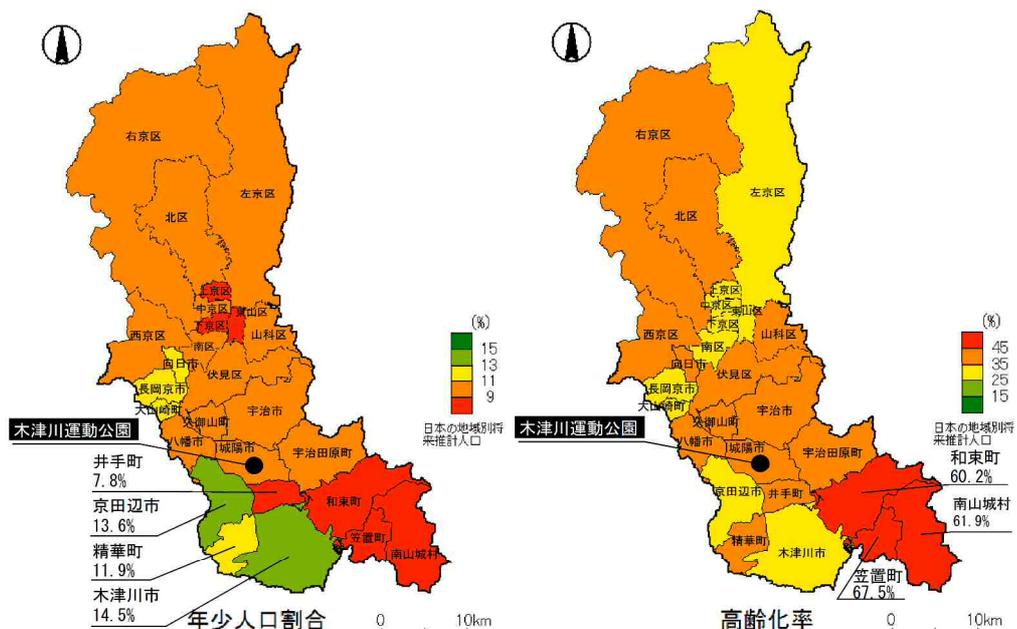
【周辺地域の人口構造を踏まえた方向性】

本公園の主たる利用圏域と考えられる山城地域は、年少人口割合が高い地域と高齢化率が高い地域が併在しており、**子育て層と高齢者層の誰もが生涯楽しむことができる公園**を目指します。



出典：「日本の地域別将来推計人口」（国立社会保障・人口問題研究所、平成30年12月25日）

図 II-4 将来（2040年）山城地域の年少人口割合・高齢化率



出典：「日本の地域別将来推計人口」（国立社会保障・人口問題研究所、平成30年12月25日）

図 II-5 木津川運動公園利用者の居住地域圏における将来年少人口割合・高齢化率

(2) 子育て支援に関する方向性

京都府では、京都の子どもたちが健やかに育ち、夢や希望をかなえられるよう「子育て環境日本一」を目指しています。

「京都府子育て環境日本一推進戦略」（京都府、令和元年 9 月）において、京都府が目指す「子育て環境日本一」は、子どもが社会の宝として、地域の中で温かく見守られ、健やかに育ち、子どもの生き生きとした姿と明るい声が響き渡る社会の実現としています。子どもを中心に地域の人々が集い、乳児から高齢者までの交流の輪が広がり、行政も地域も企業も一体となって子どもを見守り、みんなで支えあう子育てにやさしい京都であり、京都で子育てをしたいと思える社会です。

同推進戦略における府民調査によると「子どもの学習環境」「保育サービス」「地域の人とのつきあい」「自然環境」「就労環境」などの満足度が高いほど、「子育てしやすいまち」と実感しており、総合的に施策を進め、住みやすいまちをつくり、子育ての満足度をあげることが重要としています。また、充実を希望する子育て支援サービスとして「子どもがアソべる場や機会の提供」が 6 割近くに上っています。また、子育てについての不安や悩み、孤立を感じる親が増加しており、子どもが健やかに育つ社会をつくることも必要としています。

これらのことから、子育てに関する方向性として以下のとおりとします。

【子育て支援に関する方向性】

まちの中にはない自然や緑の中で、様々な遊びや体験・学習を通して子どもの健やかな心身の発達を促すとともに、成長に合わせて自由な利用ができる公園を目指します。

また、子育て世代の交流や様々なサポートを通して子育てを支援するとともに、若者や高齢者との交流の輪も広げ、社会全体で子どもをあたたく見守れる地域を目指します。

(3) 健康長寿・健康づくりに関する方向性

運動習慣がある府民割合は、男性 26.7%、女性 21.0%であり、男女とも 30 歳代がそれぞれ 14.0%、6.2%と最も低い状況で、いわゆる現役世代（20～50 歳代）の男女で運動習慣が低くなっています。

府民の平均寿命は男女とも全国平均を上回っているものの、いわゆる健康寿命の平均は男女ともに全国平均を下まわっており、健康寿命の延伸対策が求められています。

また、高齢者を対象とした意識調査によると「個人又は友人と、あるいはグループで自主的に行なわれている活動に参加したい」と答えた人は約 7 割に上っています。

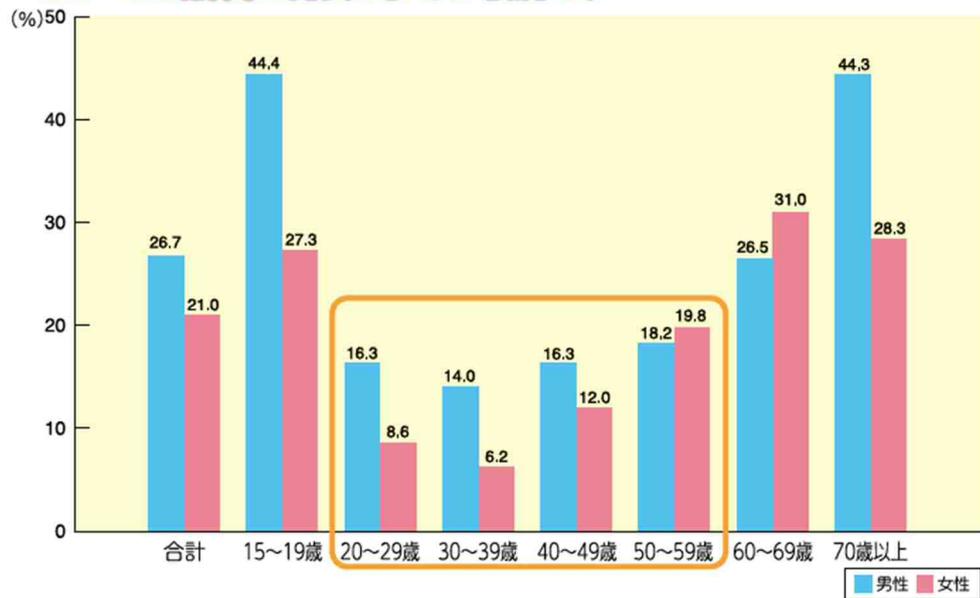
これらのことから、健康づくりに関する方向性として以下のとおりとします。

【健康長寿・健康づくりに関する方向性】

オープンスペースや緑の効能を活かした、誰もがいつでも気軽に運動やスポーツを楽しむことができる機会の創出や、様々な活動プログラムの提供により、健康長寿・健康づくりに繋ぐことができる公園を目指します。

■ 運動習慣

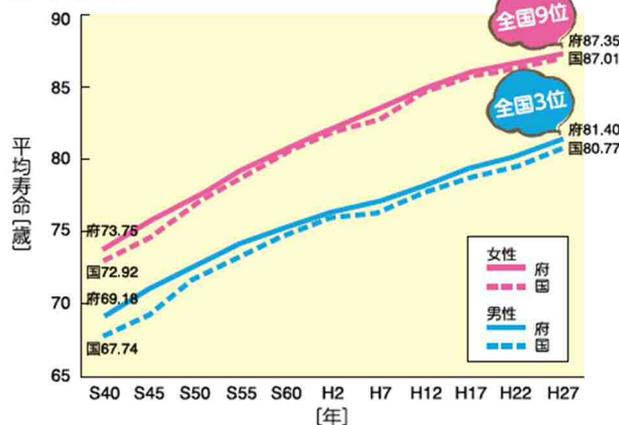
20～50歳代の男女が少ない状況です



出典：「京都府保健医療計画（きょうと健やか21（第3次）」（京都府、平成30年3月）

図 II-6 1回30分以上の運動を週2日以上実施し、1年以上継続している府民の割合

■ 平均寿命



■ 健康寿命

全国との比較

	平均寿命 [歳] (H27)		健康寿命 [歳] (H25)	
	男性	女性	男性	女性
京都府	81.40	87.35	70.21	73.11
全国	80.77	87.01	71.19	74.21

出典：「京都府保健医療計画（きょうと健やか21（第3次）」（京都府、平成30年3月）

図 II-7 府民の平均寿命と健康寿命

(4) 共生社会の実現に関する方向性

京都府では、「京都府障害のある人もない人も共に安心していきいきと暮らしやすい社会づくり条例」（平成 26 年 3 月）を制定し、障害のあるなしにかかわらず、府民誰もが相互に人格と個性を尊重し合い支え合う共生社会の実現に向けた仕組みづくりを進めてきました。こうした中、新たな「第 4 期京都府障害者基本計画」（令和 2 年 3 月）を策定し、文化芸術やスポーツ等を通じた活動機会の創出や、生涯を通じて学び続けられる環境の整備等を推進していくこととしています。

例えば東京都では、障害の有無に関わらず、子ども達が安全に遊ぶことができる遊び場（遊具等）の整備が進められています。

これらのことから、共生社会の実現に関する方向性として以下のとおりとします。

【共生社会の実現に関する方向性】

障害のある人もない人も、共に安心して楽しむことができる機会を創出し、誰もが地域で安心して暮らせる**共生社会の実現に繋ぐことができる公園**を目指します。

(5) 周辺土地利用計画を見込んだ方向性

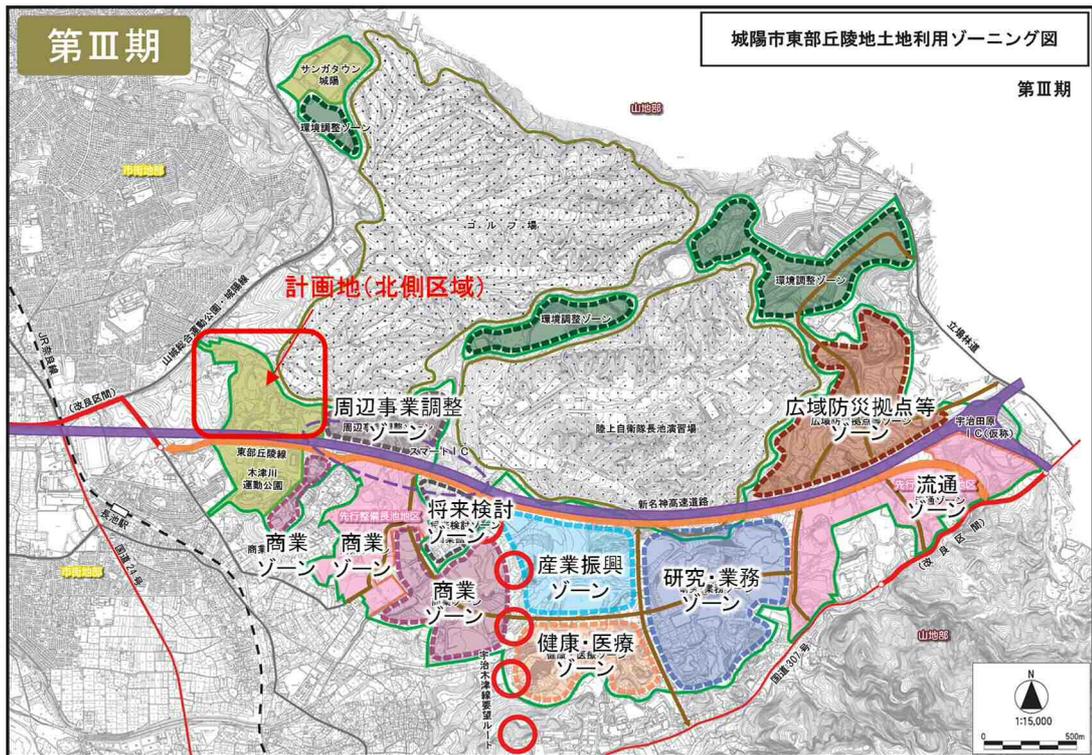
城陽市東部丘陵地は、新名神高速道路や都市計画道路東部丘陵線などの供用も見据え、段階的に整備を進めており（「城陽市東部丘陵地整備計画【見直し版】」（城陽市、平成 28 年 5 月）、現在は第 I 期先行整備エリアの整備が進められています。同計画において第 II 期からは、中間エリアを地権者意向や土地利用の需要等を踏まえ、順次、整備を進めるとしています。また今後、国道 24 号城陽井手木津川バイパスの整備により、木津川右岸地域において新たな土地利用が進むことも予想されます。

木津川運動公園は、東部丘陵地の玄関口に位置し、まとまった緑やオープンスペースを有する地区となります。

これらのことから、周辺土地利用計画を見込んだ方向性を以下のとおりとします。

【周辺土地利用計画を見込んだ方向性】

新たなまちづくりが進められつつある東部丘陵地の玄関口として、中間エリア（センターゾーン）を含む東部丘陵地全体の**整備状況に合わせて柔軟に対応しつつ、民間活力を導入した利便性の高いサービス**を提供しながら、**周辺環境と連携し相乗効果**を生み出す公園を目指します。



出典：「城陽市東部丘陵地整備計画【見直し版】」（城陽市、平成 28 年 5 月）

図 II-9 城陽市東部丘陵地土地利用ゾーニング図 第Ⅲ期

(6) 地理的優位性を活かした方向性

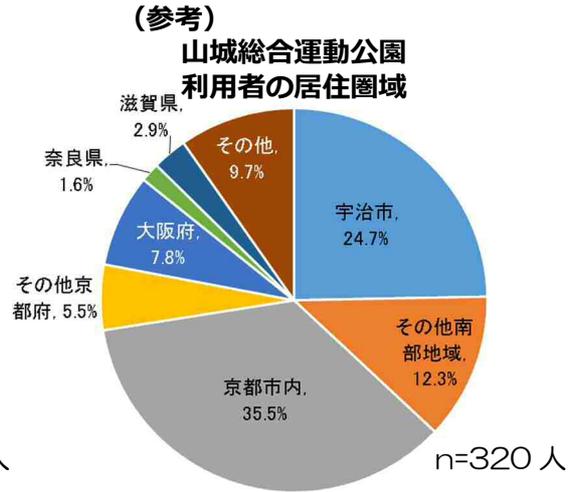
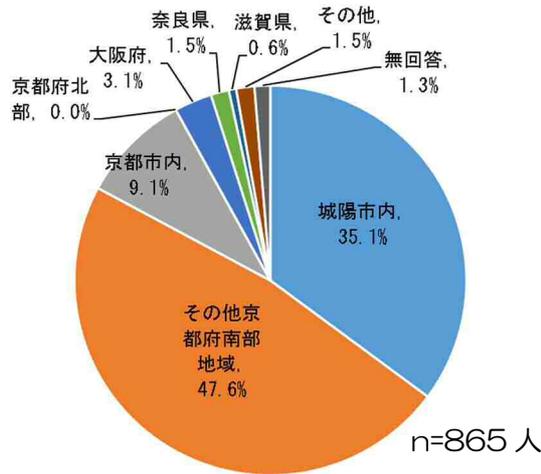
供用中の木津川運動公園（南側区域）の利用者は、城陽市内が約 35%、京都府南部の山城地域を含めると 80%以上を占めています。今後、新名神高速道路やスマートインターチェンジ、周辺道路ネットワークの整備により本公園の利用圏域が拡大し、アウトレットモール利用等の広域利用者の増加も見込まれる中、公園の魅力を高めることにより、京都府南部地域を中心とした利用者に加えて、広域利用者の拡大が見込めます。

これらのことから、地理的優位性を活かした方向性として以下のとおりとします。

【地理的優位性を活かした方向性】

来園頻度の高い**近隣利用者のニーズを満たす**と共に、スマート IC を利用した観光やアウトレットモール利用等の**広域利用者（新たな需要）を誘引できる魅力溢れる公園**を目指します。

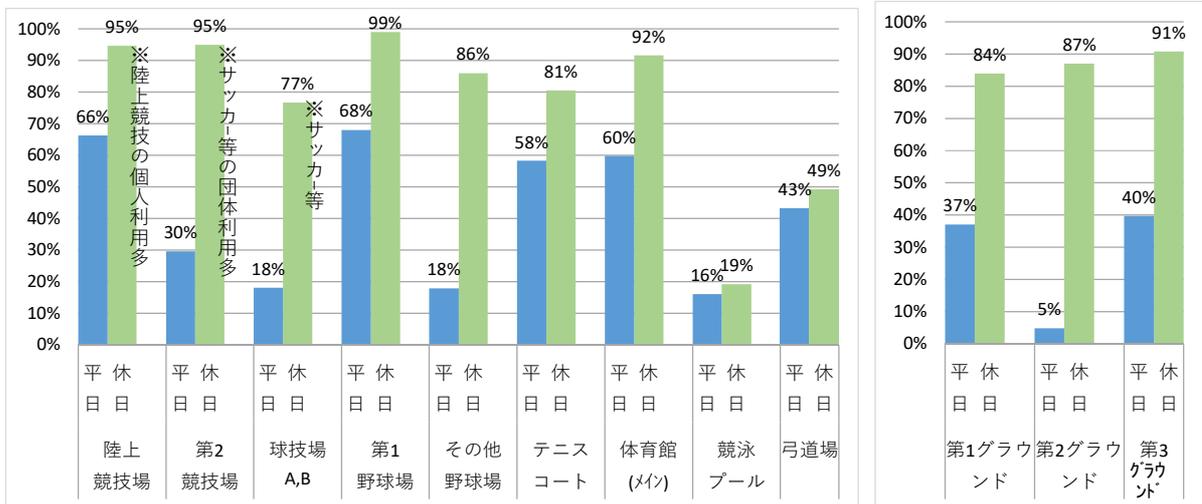
東部丘陵線に面する本公園南側区域と北側区域を機能連結して一体性を確保するとともに、**広域利用者に地域の魅力を発信し、賑わいや地域振興に寄与する公園**を目指します。



出典：平成 30 年度指定管理者業務報告書
 図 II-10 木津川運動公園（南側区域）利用者の居住圏域

(7) 公園の需給状況を踏まえた方向性

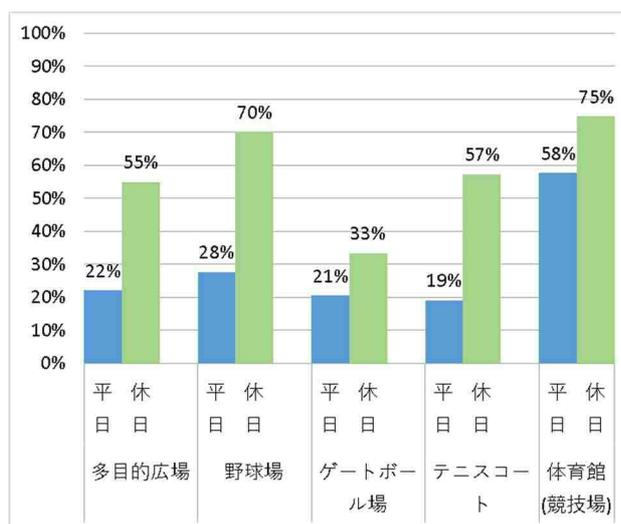
周辺公園の需給状況として、府立公園に求められる高いスポーツレベルの大会は、毎年 11 月に他の府内施設を含めて年間利用調整がなされており、定例の記録会や公認大会は開催できています。府立公園の休日の稼働率は、陸上競技場、球技場、野球場、体育館等で特に高い状況です。一方で、平日の稼働率は、20～60%台となっており、その差が大きくなっています。



出典：「平成 30 年度指定管理者業務報告書」
 図 II-11 府立山城総合運動公園の施設稼働率 府民スポーツ広場の稼働率

城陽市総合運動公園の休日の稼働率は、野球場、体育館（競技場）で70%台となっています。体育館（競技場）は、ナイター設備があり平日の夜間利用が見込めるため、その差が比較的小さくなっています。

なお、城陽市総合運動公園では、令和元年6月に、全天候型アウトドア施設（ロゴスランド）がオープンしています。



出典：「平成30年度城陽市資料」

図 II-12 城陽市総合運動公園の施設稼働率

本公園周辺には、府・市の都市公園をはじめとする緑に囲まれた運動・レクリエーション機能が所在しており、これら施設と機能分担及び相乗効果が図られる公園整備が求められます。近隣の主な施設として、公共施設は城陽市総合運動公園、府立山城総合運動公園、宇治市植物公園等、民間施設は公益財団法人青少年野外活動総合センター（友愛の丘）、城陽サンガタウン、ゴルフ場等が所在しています。

表 II-1 周辺施設の概要

城陽市総合運動公園（16ha）【本公園からの道路距離：約1km】	
スポーツゾーン	
運動施設	体育館、野球場、多目的広場、テニスコート、ゲートボールコート
便益施設	レストハウス 等
その他施設	野外ステージ 等
レクリエーションゾーン（LOGOS LAND）	
運動施設	——
便益施設	宿泊施設、宿泊施設（室内キャンプ）、バーベキュー、レストラン、カフェ 等
その他施設	グランピング、ふわふわドーム、ローラースライダー、大型アスレチック遊具、大芝生広場 等

表 II-2 周辺施設の概要

府立山城総合運動公園（94.9ha）【本公園からの道路距離：約3km】	
運動施設	野球場、陸上競技場、体育館、球技場、テニスコート、競技プール、弓道場
便益施設	レストラン
その他施設	会議室、多目的ジム、遊びの森（遊具等）、冒険の森（アスレチック遊具）等、ふるさとの森（回遊園路等）、ふれあいの森（芝生広場、散策路等）、野外ステージ等
宇治市植物園（10ha）【本公園からの道路距離：約3km】	
展示又は観覧施設	培養所（園内植物の育苗・管理）、温室、立体花壇、ライブラリー（花と緑に関する参考図書）
便益施設	レストラン・売店
その他施設	研修室 等
府民スポーツ広場（9.7ha）【本公園からの道路距離：約12km】	
運動施設	グラウンド
便益施設	——
その他施設	自由広場 等
公益財団法人青少年野外活動総合センター（友愛の丘）【本公園に隣接】	
運動施設	フットサル場、グラウンド、プール
便益施設	宿泊棟、バーベキュー 等
その他施設	研修室、キャンプ、キャンプファイヤー場 等

本公園周辺には運動施設が多数有り、高いスポーツレベルの大会も開催できており、施設が著しく不足している状況ではなく、需要ニーズに応えることができていると考えられます。一方で、休日における運動施設の稼働率は高いものの、平日と休日の稼働率の差が大きい状況となっています。

また、運動施設以外では、芝生広場やアスレチック遊具など主に近隣居住者が日常的に利用する施設や、グランピングなど魅力が高く広域からの利用を見込める施設といった、多様な施設があります。

これらのことから、公園の需給状況を踏まえた方向性として以下のとおりとします。

【公園の需給状況を踏まえた方向性】

平日の利用促進を図れる個人や少人数、夜間利用が可能な運動施設、利用圏域を考慮した施設の組み合わせ等により、周辺の既存公園等と機能分担や連携を図り、これまで公園を利用していない人々などの新たな需要を喚起し、相乗効果を促します。

(8) 城陽山砂利採取跡地の自然再生と緑の活用の方向性

現計画である「木津川右岸運動公園(仮称)整備計画策定に向けた提言」において、「山砂利採取跡地の自然再生と緑豊かな公園」があり、引き続き山砂利採取跡地の緑の回復が求められています。

また、北側区域の西側には、貴重な既存林が広がっており、これらを踏まえた方向性を以下のとおりとします。

【城陽山砂利採取跡地の自然再生と緑の活用の方向性】

山砂利採取跡地の自然再生による**緑豊かな公園**、既存の**緑を保全し活用した公園**を目指します。

(9) WITH・POST コロナ社会に求められる公園機能

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大は、社会生活に大きな影響を及ぼしていますが、一方で、コロナ禍でも多くの人々が身近な公園に訪れ、改めてオープンスペースを有する公園の必要性が再認識されました。

「WITH コロナ(コロナウイルスとの共存を目指す社会のあり方)」「POST コロナ(コロナ禍以降に様変わりした社会のあり方)」社会において、働き方改革により既に進められていたテレワークが加速し、時間に制約されない生活が浸透していく中で、公園のテレワークによる平日利用や会議・研修などの企業による多目的な公園利用が進むことも考えられます。

WITH・POST コロナ社会における方向性として、以下のとおりとします。

【WITH・POST コロナ社会に求められる公園機能】

施設の事前予約制やSNSでの情報発信等による**混雑度の管理**を図ります。また、平日利用の促進にも繋がる企業による**会議・研修やテレワーク利用等**、**新たな利活用**が図られる公園を目指します。

また、基礎体力を向上し免疫力を高める運動に気軽に取り組める公園を目指します。



(左：府立木津川運動公園、右：府立関西文化学術研究都市記念公園)
図 II-13 コロナ禍における公園利用状況(令和2年4月25日(土))

(10) 方向性の実現化施策・ツール

ア 官民連携

(7) 民間企業との連携

高度経済成長期においては、増加する人口に対応するため、公園や緑地も量的な整備が求められていましたが、現在では既存施設のストック効果をより高め都市公園を一層柔軟に使いこなすことが重要と考えられており、この考え方を推進するため、平成 29 年に都市公園法が改正され、民間活力による新たな整備手法の創設等が行なわれました。

近年では、全国の多くの都市公園において民間活力を用いた官民連携事業による公園整備が進められており、公園整備における実現施策・ツールは、以下のとおりとします。

【民間企業と連携した整備】

積極的な民間活力の導入により、オンリーワンの魅力創出や質の高いサービスの提供、整備・運営の効率化を目指します。

(4) 府民団体等との連携

南側区域では、山城地域の里山風景の再生を目指し、平成 18 年度より森づくりのボランティア活動を開始しています。現在の会員は約 50 人で、月 5~6 回程度の活動（苗木育成、植樹、植栽管理、環境学習等）に取り組んで頂き、令和元年 9 月までに約 1 万本を植樹（内、平成 30 年度植樹 418 本）しました。



出典：木津川運動公園ホームページ

図 II-14 再生の森づくり活動状況

表 II-3 木津川運動公園（南側区域）平成 30 年度 再生の森づくり活動人数

出典：「平成 30 年度指定管理者業務報告書」

	活動人数	割合
職員	93 人	8.4%
会員	664 人	59.7%
一般	355 人	31.9%
合計	1,112 人	100.0%

各種団体等との連携による公園整備の実現施策・ツールは、以下のとおりとします。

【府民団体等との連携に関する方向性】

民間事業者（北側区域の官民連携）と府民・ボランティア団体等との連携により、山砂利採取跡地の自然再生（園路等の京都府管理区域における植樹・育樹管理等）を目指します。

イ 新技術の導入

ICT（情報通信技術）等の新技術を活用した次世代の公園づくりを行なうことで、公園の魅力や利便性の向上、情報発信による利用促進を図り、併せて公園のスマート化や運営維持管理（マネジメント）の効率化による持続可能な公園マネジメントの推進が可能となります。

例えば、IoT（モノのインターネット）と運動が連動した健康づくり、AR（拡張現実）や VR（仮想現実）を活用したアミューズメント施設、パーソナルモビリティ、キャッシュレス化や、IoT を活用した施設管理等による公園運営のスマート化、AI（人工知能）による利用者案内などが考えられます。しかし、情報技術のハードを用いた公園づくりでは、システムの陳腐化のスピードが早いことにも留意する必要があります。

京都市域から関西文化学術研究都市にかけては、多様な企業や、産業支援機関、大学・研究施設が数多く集積しており、先端研究やスマートシティへの取組みが進められています。これら企業や大学等と多様な連携を行なうことで、持続可能な取組みが可能となり、公園整備における実現施策・ツールは、以下のとおりとします。

【新しい情報技術等の活用、大学や企業との連携】

ICT 等の新技術（IoT、AI、AR 等）を活用した公園施設の魅力向上や情報発信による利用促進を図り、併せて公園全体のスマート化や運営維持管理（マネジメント）の効率化による持続可能な公園マネジメントを目指します。

また、官民連携による施設導入や、公園施設やオープンスペースにおけるフィールド実験など、大学や企業等との多様な連携により、次世代の公園を目指します

2 北側区域の新たな整備方針

(1) 基本計画の考え方

木津川運動公園の北側区域では、山砂利採取跡地の自然再生を念頭に、南側区域と一体となって府民生活に寄り添い、長く愛される公園を目指します。

公園づくりでは、以下に述べる整備方針を実現するとともに、長く愛される公園として30年、50年先を見据え、時代や周辺環境の変化に柔軟に対応していくため、成長・改変していくことが可能な公園とします。

- ①自然地形を利用するエリアと平面的に利用するエリアに区分します。
- ②公園の目指すべき姿を実現させていくための核となる施設については、基本機能として計画に位置づけます。
- ③さらに、オンリーワンの魅力を創出し公園の利便性を一層向上させるため、施設整備と運営が一体的に展開される民間提案を求めています。

(2) 北側区域の新たな整備方針

ア 目指すべき姿

『自然と共生した都市公園とし、幅広い人々が“運動”“体験”“交流”を通して心と体の健康や活力を実感し、新たな高速道路ネットワークによる効果を最大限に引き出す魅力溢れる空間を創出する。』

イ 方向性

- **子育て支援、健康長寿、働き方改革（健康づくり）、多様性を認め合う共生社会の形成、災害に備えたまちづくりなど SDGs 達成等の都市課題に対応する公園**
- 新名神高速道路のスマートインターチェンジやアウトレットモールに近接する地理的優位性を活かした、**賑わい・地域振興**に資する公園
- 新たな需要を喚起できるオンリーワンの魅力に溢れ、周辺環境に**相乗効果**を生み出す公園
- 緑が充実し、緑を**自然体験・学習**に活かした公園
(山砂利採取跡地であった東部丘陵地の自然再生)
- WITH・POSTコロナ社会に求められる機能を有する公園

ウ 実現化施策・ツール

- ICT等の新技術の活用や多様な取り組み（ソフト施策）による公園の魅力向上
- 積極的な民間活力の導入により、質の高いサービスの提供、整備運営の効率化を目指す
- 府民、NPO、大学、地元企業等との地域連携

これらの他、Society5.0による公園のスマート化（IoT、AI、AR、VR等の新技術の導入・活用）、ユニバーサル化など誰もが利用しやすい公園づくり、様々な活用プログラムの提供等を組み合わせ、方向性の実現を図ります。

(3) 方向性の実現に向けたシナリオ

ア 公園づくりの基本的な考え

公園整備・運営に参入する民間事業者の提案の自由度を高めるため、基本計画は、民間提案で整備・運営する施設の内容を確定せず、公園として基本的な機能のみを定める柔軟性のある計画とします。その上で、民間事業者とのサウンディング型市場調査結果、府民アイデア募集アンケート結果も踏まえ、現段階で想定される内容を例示的に示します。

北側区域の大部分は、山砂利採取後に埋め戻された土地であり、公園整備には造成や基盤施設の整備が必要となります。導入機能や管理・運営を含めて、民間事業者等との対話を継続し、施設配置や具体的な導入機能の絞り込みや、オンリーワンとなる魅力向上を図ります。

イ 短期的な公園づくり【東部丘陵地整備計画第Ⅰ期】

短期的には、時代や周辺環境の変化による成長・改変も念頭に置きながら、今、多様な世代に求められている機能の導入や、周辺施設との連携や相乗効果を図り、地域に愛される公園づくりを行います。併せて新名神高速道路開通の効果を活かした魅力溢れる空間を創出します。

【ステージ1】 北側区域の順次供用に向けた公園づくり	【主な取り組み】 <ul style="list-style-type: none">● 造成や園路等、公園の基盤整備や自然再生に着手● 広場等の整備により可能な範囲を順次供用
-------------------------------	---

【ステージ2】 民間事業者と連携した公園づくり	【主な取り組み】 <ul style="list-style-type: none">● 基盤整備の進捗と併せ、民間事業者を公募し施設等の整備や活用プログラム等の開発に着手● 周辺環境等との連携● 施設等の整備を進めながら公園全体を供用
----------------------------	--

ウ 中長期的な公園づくり【東部丘陵地整備計画第Ⅱ期～第Ⅲ期】

今後進められる東部丘陵地の中間エリア（センターゾーン）の開発等の周辺環境や時代の変化など、本公園に求められる機能の変化に応じ、柔軟な公園機能の成長・改変を図ります。

【ステージ3】 周辺環境や時代の変化に対応した成長・改変	【主な取り組み】 <ul style="list-style-type: none">● 公園施設や活用プログラム等の柔軟な成長・改変● 周辺環境等との連携強化
---------------------------------	---

Ⅲ 北側区域のサウンディング型市場調査及び府民アイデア募集結果

1 木津川運動公園（北側区域）整備事業の魅力向上に向けたサウンディング型市場調査結果について

本調査は、事業発案段階として、民間事業者との対話を通じて木津川運動公園（北側区域）の官民連携事業に関する事業アイデアや実施に際して課題等の意見をヒアリングし、事業検討の資料としていくことを目的に実施しました。

参加事業者は 17 グループとなり、その参加事業者（代表企業等）と、提案された主な活用アイデアは以下のとおりです。

表 III-1 応募事業者

参加事業者（代表企業等）	17グループ
(株)浅沼組、NSシェアードサービス(株)、(株)クリーン工房、(株)薫風舎、京阪園芸(株)、(一社)城陽市観光協会、(株)スターツ総合研究所、(株)スノーピーク、(公財)青少年野外活動総合センター、西武造園(株)、大和リース(株)、(株)初亀、(株)バンダイナムコアミューズメント、(株)冒険の森、(株)ポーネルド、ミスノ(株)、他1者	

表 III-2 提案された主な活用アイデア

公園整備の視点	民間事業者のアイデア
子育て支援	子どもの遊び場（全天候型含む）、遊具、森の幼稚園、農業体験 等
健康長寿	フィットネス+ドッグラン+動物介在療法、デイサービスの場 等
賑わいや地域振興	アトラクション、アミューズメント施設、スポーツ・子育て・健康系アミューズメント、野外ライブ会場、ファーマーズマーケット、テーマパーク、温浴施設、レストラン、カフェ 等
緑を活かした公園	キャンプ場、グランピング、バーベキュー場、森を活用したアミューズメント施設、ドッグラン、アスレチック、ジップライン、地形を活かした花修景、広場、景観形成、ライトアップ、しだれ梅の梅林やコーヒーの木植樹、自然体験、自然再生 等
IoT、AI、AR	高齢者の新しいモビリティの練習場、ドローンスクール、ITベンチャーの新技术導入の場 等
働き方改革（健康づくり）	野球場、ラグビー場、屋根付運動場、(インドア) テニスコート、フットサルコート、ランニングステーション、フィットネス、パラスポーツ、CAMPING OFFICE (テレワーク、会議、企業研修)、企業向けセミナー・会議+動物介在 等

2 木津川運動公園（北側区域）整備事業の魅力向上に向けた府民アイデア募集アンケート結果について

アンケートによるアイデア募集の結果、府民の皆さまから合計 39 件のご意見を頂きました。頂いたアイデアは以下のとおりでした。

表 III-3 公園テーマ別のアイデア

公園のテーマ	公園の施設、活動やイベントのアイデア
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールプール、滑り台、ジャングルジムのな立体施設 ・子どもの楽しめる空間や施設 ・子育てに役立つ勉強の施設 ・ヒーローものなど子ども向けのイベント ・地域の自然、農業、食を未就学児が体験できる施設 ・子どもが外で思いっきり遊具と真剣に向き合って遊べるもの ・障害のある子どもも一緒に遊べる遊具の整備 ・小学生の水害や土砂災害の防災体験ができる社会学習施設
健康づくり・運動	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が健康増進のために大声で叫べる場所 ・ドッグラン、ペットの公園、自然豊かで、ペットの散歩等が可能な広いエリア ・高齢者向けのゲートボール場 ・高齢者の運動になるボルダリング施設 ・グラウンドゴルフ場 ・クロスカントリーコース、ジョギングコース ・健康遊具のあるウォーキング、ランニングコース ・健康テーマパーク施設
スポーツ振興	<ul style="list-style-type: none"> ・フットサルコート ・ボール遊びができるゾーン ・有料のジップラインやアウトドア施設 ・正式なサッカーコート機能を有する多目的芝生広場 ・スケートボードコース ・木津川サイクリングロードへ繋がる自転車道
賑わいや地域振興	<ul style="list-style-type: none"> ・巨大なウォーターライダーを有するプール ・子どもと遊べる小規模なモーターレーシングコース ・気球に乗れる、ヘリポート施設 ・国内の唯一無二のアトラクション施設 ・新名神の橋脚を利用したアトラクション施設 ・伊勢のおかげ横丁のような賑わい施設 ・宿泊、温浴、レジャー施設 ・野外音楽堂施設
緑地再生などの環境保全	<ul style="list-style-type: none"> ・森の木を残し、森林浴が可能な公園 ・散策路や四阿 ・里山づくり、森の再生、既存林の保全 ・竹林を活かした体験プログラム、自然体験 ・観光者向けの里地里山の生活体験プログラム ・植物園施設 ・敷地内の大量の砂を利用した、砂まつりの開催や砂場 ・豊富な地下水を利用したボート、カヌー等の水上遊園 ・自然のアスレチック ・南側区域と北側区域の間に、野生動物の専用通路の設置
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ、BBQ、温浴、グランピング ・災害時避難場所、避難訓練 ・府立医大附属病院の設置 ・農業栽培、体験を通じた持続可能な環境施設 ・温浴施設や簡易宿泊施設 ・府道山城総合運動公園城陽線側出入口から市道東部丘陵線側出入口への通り抜け禁止

IV 公園区域、先行整備エリアと導入機能

1 公園区域

本公園は、2002年（平成14年）サッカーワールドカップの京都府の会場候補地として、平成7年度に30.9haを都市計画決定しています。その際、北側区域は、スタジアムの配置が可能な区域を計画しています。

現区域は自然再生が必要な山砂利採取跡地であるため、まちの中にはない生物多様性の保全や里山における子どもの遊びや体験・学習など、都市公園として求められる機能を配置するには、西側の既存山林部分も一体的に都市公園とすべきと考えられ、現都市計画公園区域を拡大し、一体的な計画を策定します。

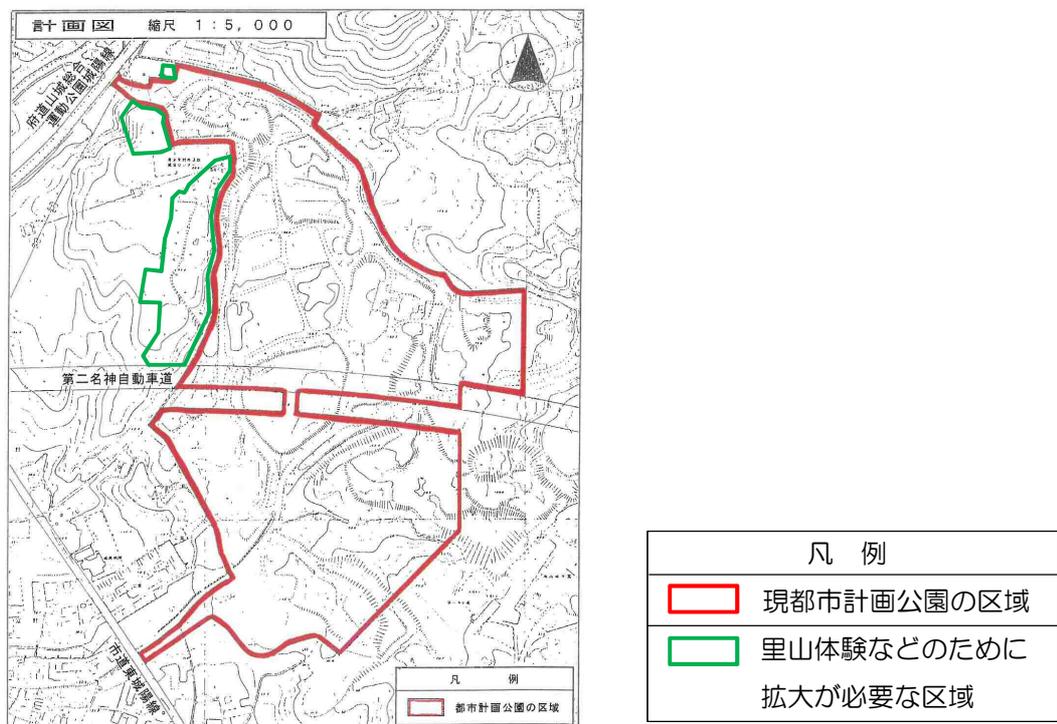


図 IV-1 現都市計画決定（平成7年度）と拡大が必要な区域



（左：北側区域中央部、右：北側区域西側の既存林）

図 IV-2 現在の北側区域の状況

2 整備エリア

北側区域の内、用地を取得している西側部分（下図①）、東部丘陵線に面する南側区域の公園センター部分（下図②）及び北側区域と南側区域を接続し一体化を図る南北連絡橋（下図③）を「先行整備エリア」とします。将来的に民間開発のタイミングに合わせて整備を行う北側区域の東側部分を「将来構想エリア」とします。

北側区域の「先行整備エリア」は、山砂利採取跡地であった部分は造成を行って平面利用する「造成エリア」、既存林が残る部分は自然地形を利用する「森林エリア」とします。南側区域の公園センター及び大型車駐車を「南側区域の再整備エリア」とします。

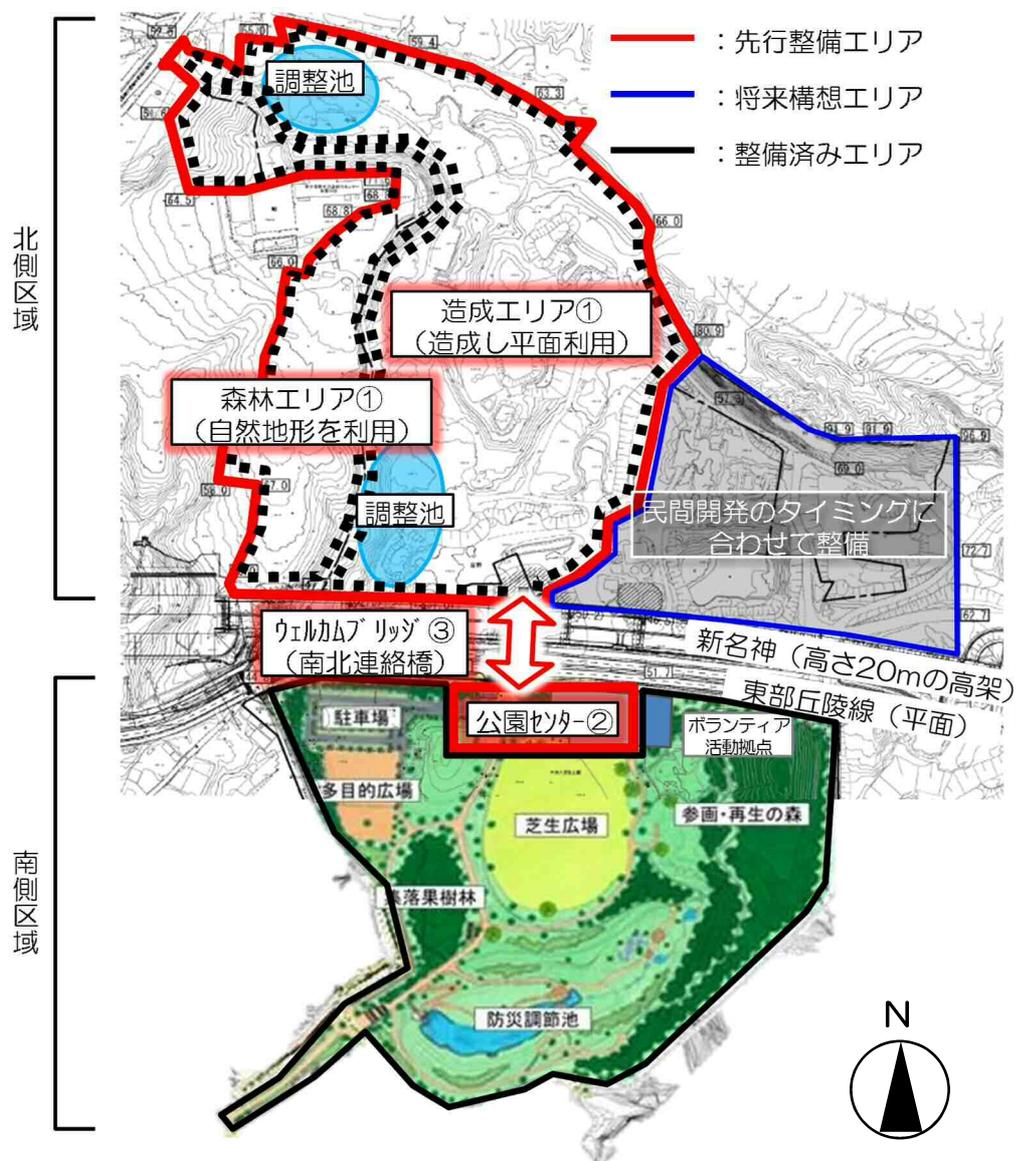


図 IV-3 整備エリア

3 導入機能の考え方

木津川運動公園に導入する機能については、18ページ以下に示した北側区域の新たな整備方針、懇話会での意見、サウンディング型市場調査及び府民アイデア募集結果を踏まえ、東部丘陵地の中間エリア（センターゾーン）等の開発状況に合わせた柔軟な対応を念頭に、新たなまちづくりが進められつつある東部丘陵地の玄関口として、周辺環境や地域と連携し相乗効果を生み出す公園を目指して策定します。

今、多世代に求められている本公園の方向性を実現するため、「コロナ禍による新しい生活様式などの課題」に対応しつつ、「子育て支援」、「健康長寿・健康づくり」、「自然体験・学習」を主要な柱として、ライフスタイルを再構築する空間（公園）を形成し、京都府南部地域の「賑わい・地域振興」を創出する導入機能を計画します。この他、施設整備等の公園づくり、活用プログラムの提供や管理運営などを一体的に展開し、方向性全体の実現を図るものとしします。

これらの機能を互いに連携させて地域、世代間の交流を図り、生活に必要なファーストプレイス（例えば家）、セカンドプレイス（例えば職場や家事、学校や保育園）以外の、社会全体で子育てを温かく見守るサードプレイス（居心地の良い居場所）となる空間を目指します。

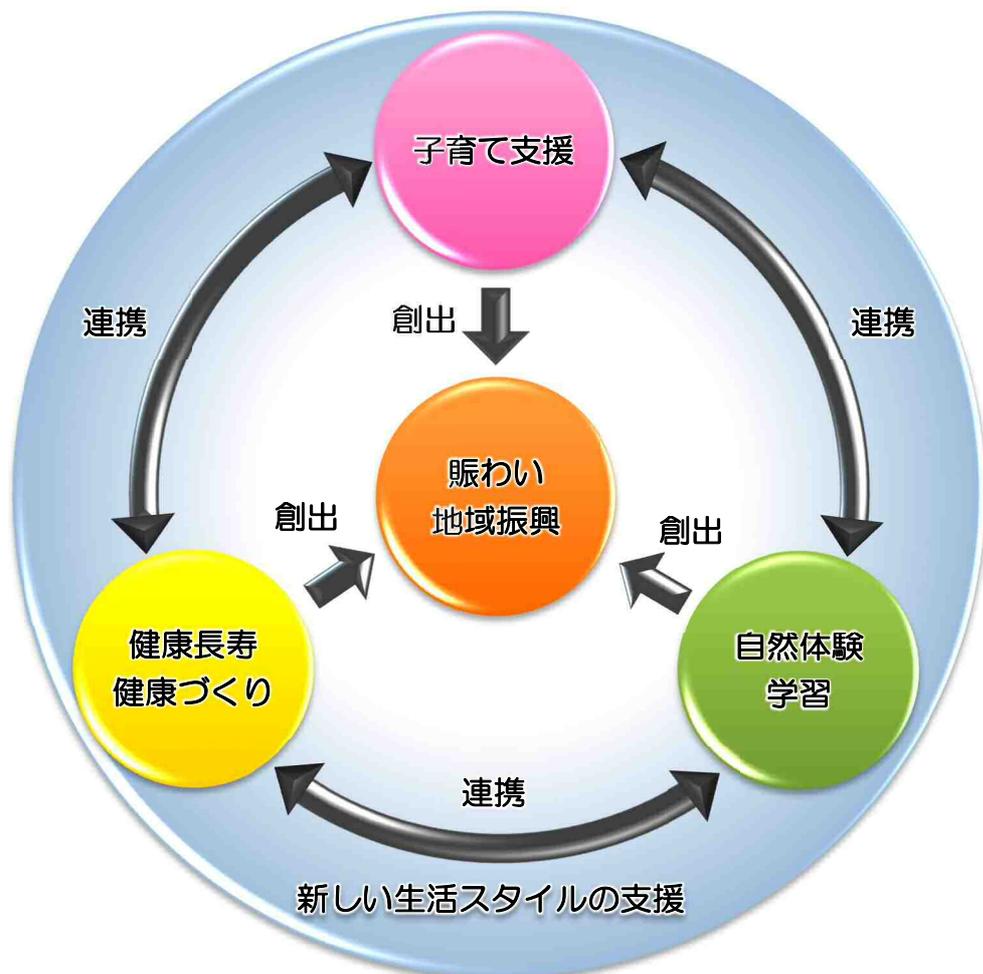


図 IV-4 本公園の新たな整備方針を実現する導入機能の概念



図 IV-5 木津川運動公園と周辺施設

4 基本機能（必須設置）と向上機能（民間提案）の設定

導入機能を、必ず設置すべき機能と民間事業者からの提案を期待する機能に分類します。

公園の目指すべき姿、方向性を実現していくための核となる機能を基本機能（必須設置）、オンリーワンの魅力を創出し本公園の利便性を一層向上させるために施設整備（ハード施策）と活用プログラムの提供や管理運営などの取り組み（ソフト施策）が一体的に展開される民間提案を求めていく機能を向上機能（民間提案）とし例示します。

なお、これらは、現時点で想定されるイメージであり、民間事業者の自由な提案により確定していきます。

5 北側区域及び南側区域の導入機能

(1) 先行整備エリア

ア 子育て支援機能

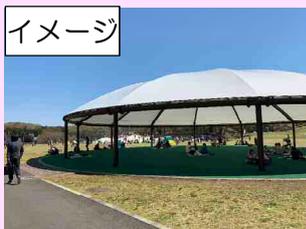
子どもの心身の健全な発達に関わる遊びや体験、読書や学習などの文化活動の機会を創出するとともに、地域との交流、子育て世代のサポートやコミュニティを創出し、親子のサードプレイス（家庭や学校・職場等以外の居心地の良い場所）となり、子育てを支援する機能

《施設》ハード施策

(7) 基本機能（必須設置）

- ・強い日差しや雨天時でも遊びやイベントが可能な「大規模屋根付広場」
- ・親子のふれあいや、障害の有無や年齢等に関わらず一緒に自由な遊びができる「芝生広場・遊具」
- ・読書や学習などの文化活動、コミュニティの場となる「休憩所」

イメージ



国営武蔵丘陵森林公園

イメージ



提供：(株)コトブキ

イメージ



提供：(株)コトブキ

施設イメージ（左：大規模屋根付広場、中：遊具、右：遊具）

(イ) 向上機能（民間提案の例）

- ・絵本図書室やカフェを併設した、小さな子どもの遊びや親子のふれあいの場となる「室内遊戯施設」
- ・楽しみながら体を動かすことができる「アドベンチャー施設」 等

イメージ



提供：(株)ポーネランド

イメージ



提供：(株)ポーネランド

施設イメージ例（左：室内遊戯施設、右：室内遊戯施設）

《取り組み》ソフト施策

- ・障害の有無等に関わらず、全ての子どもの発育に大きく寄与する遊びや、自由な発想を刺激する活用プログラムの提供
- ・地域振興機能や自然体験・学習機能と連携した食育、学習、体験
- ・親子の触れ合いや地域との交流を図る教室やイベントを通して、交流の輪が広がり、親子の居心地の良い空間を提供 等

イ 健康長寿・健康づくり機能

誰もが気軽に運動を楽しむことができる機会を創出し、心身の健康づくりや生涯現役を目指した健康長寿を支援する機能

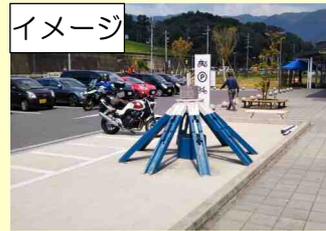
《施設》ハード施策

(ア) 基本機能（必須設置）

- ・安心して楽しみながら運動できる「ウォーキング・ランニングコース」
- ・京都やましろ茶いくるラインの発着拠点、目的地となる「サイクリングステーション」



別所沼公園



道の駅お茶の京都みなみやましろ村

施設イメージ例（左：ウォーキング・ランニングコース、右：サイクリングステーション）

(イ) 向上機能（民間提案の例）

- ・情報技術（AI、IoT）を活用した「新しい運動施設」
- ・基本機能と一体となって健康づくりを支援する「フィットネスジム」や「ランニングステーション」
- ・天候にかかわらず運動が可能な「屋内運動施設」
- ・広い空間を活かした文化イベントの開催が可能な「屋根付き運動施設」等



提供：NSシェアードサービス（株）



提供：ミスノジム



提供：ミスノフットサルプラザ和田岬

施設イメージ例（左：運動教室、中：スポーツジム、右：屋根付き運動施設）

《取り組み》ソフト施策

- ・公園の景観や緑の効能を生かしたパークフィットネス
- ・賑わい・地域振興機能と連携した、食生活改善や遊びを通じた運動
- ・アスリートやインストラクターによる体力に応じた運動指導や、子ども向け運動教室
- ・年齢や障害の有無等に関わらず、誰もが一緒になって活動・交流できる運動プログラムやイベント
- ・日本遺産「日本茶 800 年の歴史散歩」を巡るサイクリング観光 等

ウ 賑わい・地域振興機能

南側区域も含め公園全体の利便性と魅力を一層向上させるとともに、広域利用者に地域の魅力を発信し、公園と地域の賑わいを創出する機能

《施設》ハード施策

(ア) 基本機能（必須設置）

- ・ウエルカムブリッジ（南北連絡橋）と一体となった、公園の景観を活かした「レストラン・カフェ」、「地域物産館」
- ・様々な催し開催により交流を広げる「イベントスペース」



大阪城公園



南池袋公園

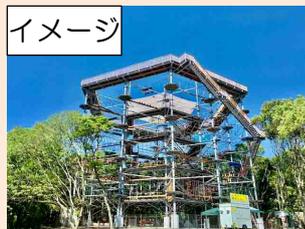


提供：(株)ファーマーズ・フォレスト

施設イメージ例（連絡橋と一体となった飲食施設、レストラン・カフェ、地域物産館）

(イ) 向上機能（民間提案の例）

- ・多世代の楽しみを提供し、公園の魅力を向上させる屋内外の「アミューズメント・アクティビティ施設」
- ・公園利用の利便性に寄与する「小売店舗」や、新たな利活用を図る「文化・教養施設」等



提供：万博 BEAST



国営武蔵丘陵森林公園

施設イメージ例（アスレチックタワー、セグウェイツアー）

《取り組み》ソフト施策

- ・地域の交流を広げ、賑わいを創出する地域のマルシェや文化などの多様なイベント開催
- ・農作物、畜産物、工芸品や観光情報など、広域利用者に地域の魅力発信
- ・地域食材を活かした飲食提供による魅力発信と食育
- ・地域のものづくりと連携による付加価値の創出と地域交流

工 自然体験・学習機能

山砂利採取地の自然再生、まちの中にはない生物多様性の保全や自然とのふれあい・体験、公園と隣接した野外活動施設との連携により、子どもの心身の健全な発達を促すと共に、自然との共生を実感できる幅広い世代のアウトドアの活動の機会を提供する機能

《施設》ハード施策

(7) 基本機能（必須設置）

- ・「自然体験や農業体験」の場となる、既存林を活かした里地里山の復元
- ・自然との共生を実感し、心の安らぎを提供する「緑地、植栽」
- ・環境学習や環境保全に資することのできる「再生エネルギー施設」



国営ひたち海浜公園



提供：(公財) 青少年野外活動総合センター



提供：(株) ファーマーズ・フォレスト

施設イメージ例（活動拠点となる古民家、自然体験、農業体験）

(1) 向上機能（民間提案の例）

- ・公園の個性を表現し魅力を向上させる「花修景」
- ・野外での交流を図るキャンプやバーベキュー等の「アウトドアレジャー」
- ・心身の健康づくりに寄与する自然を活かしたアクティビティ 等



提供：京阪園芸（株）



提供：(株) 初亀

施設イメージ例（花修景、バーベキュー）

《取り組み》ソフト施策

- ・自然との共生を実感し想像力と豊かな心を育む、植物や生き物との触れ合い
- ・里地里山での体験活動を通じた生活文化や物質循環の学び、地域振興機能と連携した食育
- ・子どもの自由な発想と遊びを引き出すプレイリーダーの育成
- ・生きがいづくりや親密な交流を図る、花壇や里地の育成・管理活動
- ・地域の多様な主体の参画による自然再生活動 等

オ 新しい生活スタイルの支援機能（向上機能）

働き方改革や WITH コロナ等に対応した、勤務時間や場所に左右されない新しいワークスタイルや、オフィススタイル等を支援する機能

《施設》ハード施策

(ア) 向上機能（民間提案の例）

- ・テレワークに対応する Wi-Fi などのアクセススポット
- ・公園の景観を活かしたサテライトオフィス（テレワーク、会議、企業研修） 等



提供：（株）スノーピーク

施設イメージ例（CAMPING OFFICE）

《取り組み》ソフト施策

- ・テレワークの合間を利用した健康づくりやリフレッシュ
- ・緑の効能や開放感を活かした、企業による会議や研修など公園の新たな利活用と平日利用の促進

(2) 将来構想エリア

カ 先行整備エリアを補完する機能

民間開発のタイミングに合わせた整備により、先行整備エリアの機能を補完し、相乗効果により公園の魅力を上向きさせる機能を誘導します

《施設》ハード施策

(ア) 誘導機能（例）

- ・公園及び周辺商業施設と連携した温浴機能、宿泊機能
- ・ニーズの変化に対応した運動施設 等

先行整備エリアや南側区域と相互利用を図り、一体となって周辺環境との連携を生み出し、本公園の魅力や利便性の向上を目指すものとします。

(3) 整備済みエリア（南側区域）

キ 生涯スポーツ・レクリエーション機能

府民の健康増進、多様なレクリエーション活動を通じての余暇活動の充実・交流活動の促進や創出等を目指す。大芝生広場でのインパクトある空間を形成し、来園者が自由にくつろげる魅力ある空間づくり

《施設》ハード施策

(7) 整備施設

- ・大芝生広場
- ・遊具、多目的広場

ク 学習の森（ビオトープ）

調整池の多機能利用を積極的に目指し、修景池として美しい水辺景観を創出し、憩いの空間とするとともにビオトープとして自然環境の修復を図る。府民との協働による自然生態環境の修復活動を通じて、環境学習プログラムを展開し、学習の森を整備

《施設》ハード施策

(7) 整備施設

- ・修景池、流れ
- ・学習の森 等

《北側区域との連携》

ウエルカムブリッジ（南北連絡橋）で結ばれた北側区域と南側区域が一体となって、本公園の「目指すべき姿」や「方向性」の実現を目指します。

南側区域の大芝生広場を活かした南北区域が一体となったイベントの開催、多様な機能の導入や連携により公園内の回遊性の向上を図り、一日楽しめる公園を目指します。また、ウエルカムブリッジを経由して南北区域が一体となったウォーキング・ランニングコースの整備など、施設の連携も図って行く考えです。

6 先行整備エリアの導入機能のまとめ

先行整備エリアの「基本機能（必須設置）」と「向上機能（民間提案）」の例を以下に示します。

表IV-1 基本機能（必須設置）と向上機能（民間提案）の例

基本機能 〔必須設置〕	子育て支援	子どもの楽園（ <u>大規模屋根付広場</u> 、芝生広場・遊具、休憩所）
	健康長寿 健康づくり	ウォーキング・ランニングコース、サイクリングステーション（茶いくる関連）
	賑わい 地域振興	<u>ウェルカムブリッジ（南北連絡橋）と一体となったレストラン・カフェ・地域物産館</u> 、イベントスペース
	自然体験 学習	緑地、 <u>植栽</u> 、既存林の保全と自然体験、農業体験、環境学習にも資することのできる再生エネルギー施設
向上機能 〔民間提案〕	民間事業者からの提案を期待するものの例	
	子育て支援	有料遊具、室内遊戯施設、図書・研修室、職業体験 等
	健康長寿 健康づくり	フィットネスジム、ランニングステーション、球技場（野球、テニス、フットサル） 等
	賑わい 地域振興	コンビニエンスストア、美術館、屋外劇場、梅園、アミューズメント施設、ARアトラクション 等
	自然体験 学習	グランピング、キャンプ、バーベキュー場、ジップライン、花修景、ペットカフェ、ドッグラン 等
	新しい生活 スタイルの 支援	サテライトオフィス(テレワーク、会議、企業研修) 等

—（下線）：ランドマーク

7 基本機能配置例（参考イメージ）

現時点で想定されるイメージであり、民間事業者の自由な提案により施設の内容や配置を確定していきます。

ア 子育て支援機能

遊び場 学び場 交流 サポート 子育て環境 日本一

① 施設

- 強い日差しを避ける大規模屋根付広場（人工芝）
- 親子がふれあう芝生広場・遊具・休憩所

② 利用

- 小さな子供の安心・安全な遊び
- 大規模屋根付広場での様々なイベント



大規模屋根付広場
(国営武蔵丘陵森林公園)



大型遊具
(広町みらい公園)

イ 健康長寿・健康づくり機能

オープンハウス 緑の景観 運動 スポーツ 健康長寿 健康づくり

① 施設

- 南北区域が一体となったウォーキング・ランニングコース
- サイクリングステーション（茶いぐるみ関連）

② 利用

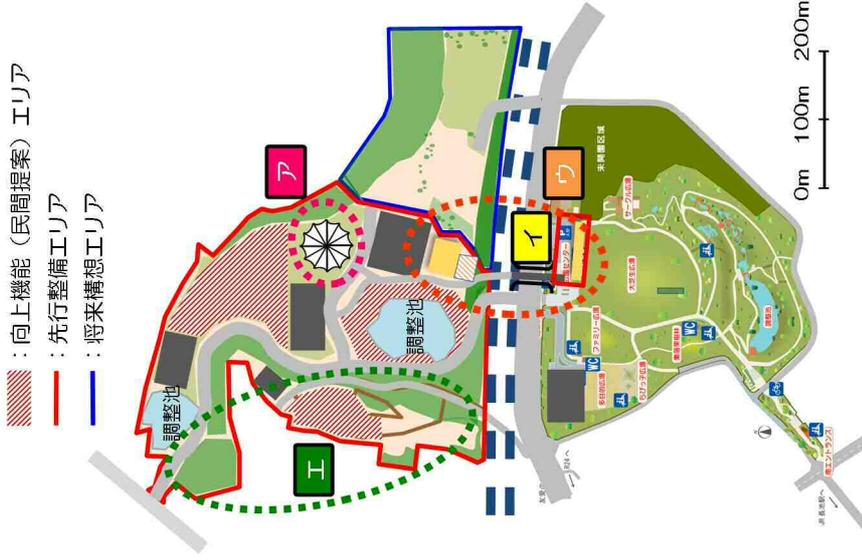
- 公園の起伏や緑の景観を活かしたウォーキング・ランニング
- 広域サイクリング観光の休憩ポイント、発着拠点



ウォーキング・ランニングコース
(国営武蔵丘陵森林公園)



サイクリングステーション
(道の駅お茶の京都みなみやましろ村)



ウ 賑わい・地域振興機能

飲食 物販 ものづくり イベント 賑わい 地域振興

① 施設

- ウェルカムブリッジ（南北連絡橋）と一体となったレストラン・カフェ・地域物産館、イベントスペース

② 利用

- 地域のものづくりと連携した食材や物産の魅力発信
- 広域利用者を取り込む滞在型観光




連絡橋と一体となった飲食施設
(大阪城公園)

地域物産館
(提供：㈱アーマーズ・フリスト)

エ 自然体験・学習機能

自然再生 里地里山 ふれあい 体験 自然体験 学習

① 施設

- 既存林を活かした里地里山の復元
- 活動拠点となる古民家移築
- 心の安らぎを提供する緑地、植栽

② 利用

- 里地里山における自然体験、農業体験
- 山砂利採取跡地の自然再生



活動拠点となる古民家
(国営ひたち海浜公園)



自然体験
(提供：公財)青少年野外活動総合センター)

各機能の連携による相乗効果

用語解説

府立木津川運動公園（北側区域）の基本計画に記載されている用語のうち、専門的な用語や十分に定着していない用語などについて、その解説を記載しています。

あ

I o T

「Internet of Things（モノのインターネット）」の略称で、家電、自動車、ロボットなどあらゆるものがインターネットにつながり、情報をやりとりすること。利便性が向上したり、新たな製品・サービスが生み出されている。

え

A I

「Artificial Intelligence（人工知能）」の略称で、学習・推論・判断といった人間の知能の機能を備えたコンピュータシステムのこと。人間と比肩するようなAIは開発されていないが、様々な分野で活用され成果を上げている。

A R

「Augmented Reality（拡張現実感）」の略称で、実際の景色、地形、感覚などに、コンピュータを使ってさらに情報を加える技術のこと。

S N S

「Social Networking Service」の略称で、登録された利用者同士が交流できるWebサイトの会員制サービスのこと。Facebook、Twitter、Instagram、LINEなどのサービスがある。

S D G s

「Sustainable Development Goals」の略称で、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓うものこと。

お

お茶の京都

日本茶文化を創造し、全国に普及させてきた「宇治茶」や茶畑景観等の山城地域（宇治市、

城陽市、八幡市、京田辺市、木津川市、久御山町、井手町、宇治田原町、笠置町、和束町、精華町、南山城村）の価値を再認識し、さらに磨きをかけ、世界に向け発信することにより、多くの人が訪れる大交流圏を創出し、日本の茶文化の一大拠点にする取組のこと。

か

稼働率

体育館など場所貸しをする施設において、府民が利用できる時間枠数に対して実際に利用された時間枠数の割合

官民連携（PPP）

公共施設等の建設、維持管理、運営等を行政と民間（民間事業者、民間団体等）が連携して行うことにより、民間の創意工夫等を活用し財政資金の効率的使用や行政の効率化等を図るもの。

き

京都やましろ茶いくるライン

「お茶」の歴史に深く関わる拠点が「日本茶800年の歴史散歩」として日本遺産に認定されたことから、その拠点等を自転車で周遊するルートを設定し、府と市町村共同で整備（誘導ラインや案内看板等）したもの。

こ

公園運営のスマート化

公園管理にIT技術を活用することで、安心・安全で環境にも配慮した公園とすること

高齢化率

総人口に対する高齢者（65歳以上）の割合

し

需給状況

府民がその施設を利用したいという「需要」と、施設がどの程度「供給」できているかのバランス

す

ストック効果

整備された社会資本が機能することによって、整備直後から継続的に中長期にわたり得られる効果のこと。

スマートインターチェンジ

高速道路のパーキングエリアなどから乗り降りができるように設置されるインターチェンジであり、通行可能な車両をETCを搭載した車両に限定

スマートシティ

都市の抱える諸課題に対して、ICT等の新技術を活用しつつマネジメント(計画、整備、管理・運営等)が行われ、全体最適化が図られる持続可能な都市または地区

そ

Society 5.0

サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)

狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。

は

パーソナルモビリティ

まち中での近距離移動を想定した1~2人乗りの小型電動コンセプトカーなどを指す次世代自動車の概念

ふ

VR

「Virtual Reality(仮想現実)」の略称で、コンピュータが生成した仮想的な空間をあたかも実世界であるかのように体感することができる技術のこと。

フィールド実験

一般の人々を対象に、家庭や職場など日常生活の場面を実験場にして実施される経済学の実験研究

ね

年少人口割合

総人口に対する0~14歳人口の割合

<参考>木津川運動公園（北側区域）の計画見直しに係る懇話会

○木津川運動公園（北側区域）の計画見直しに係る懇話会委員

専門分野	氏名	所属等
リクリエーション	青木 好子	京都先端科学大学健康医療学部教授
子育て	秋田 裕子	NPO法人グローアップ代表理事
スポーツ	伊澤 慎一	シンク・アンド・アクト株式会社代表取締役
地域行政	今西 仲雄	城陽市副市長
官民連携	○ 佐野 修久	大阪市立大学大学院都市経営研究科教授
公園行政	R1 中村 孝	国土交通省近畿地方整備局建政部公園調整官
	R2 三井雄一郎	国土交通省近畿地方整備局建政部公園調整官
観光交流	藤田 功博	株式会社のぞみ代表取締役
健康長寿	星野 明子	京都府立医科大学大学院保健看護学研究科教授
地域振興	堀井 美郎	城陽商工会議所会頭
公園整備	◎ 増田 昇	大阪府立大学名誉教授

◎委員長、○副委員長

○開催経過

	開催年月日
第1回	令和元年10月20日（日）
第2回	令和元年11月18日（月）
第3回	令和2年9月16日（水）
第4回	令和3年2月8日（月）

○パブリックコメント

令和2年12月17日（木） ～ 令和3年1月15日（金）

府立木津川運動公園（北側区域）の基本計画

令和3年（2021）年3月策定

発行 京都府建設交通部都市計画課

〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町

TEL：075-414-5272